



一般社団法人

日本看護系学会協議会

# JANAシンポジウム

看護系学会が今、新型コロナウイルス感染症  
対策に向けて取り組むこと

# 新型コロナウイルス感染症の対応 に関する会員学会アンケート

## 調査結果

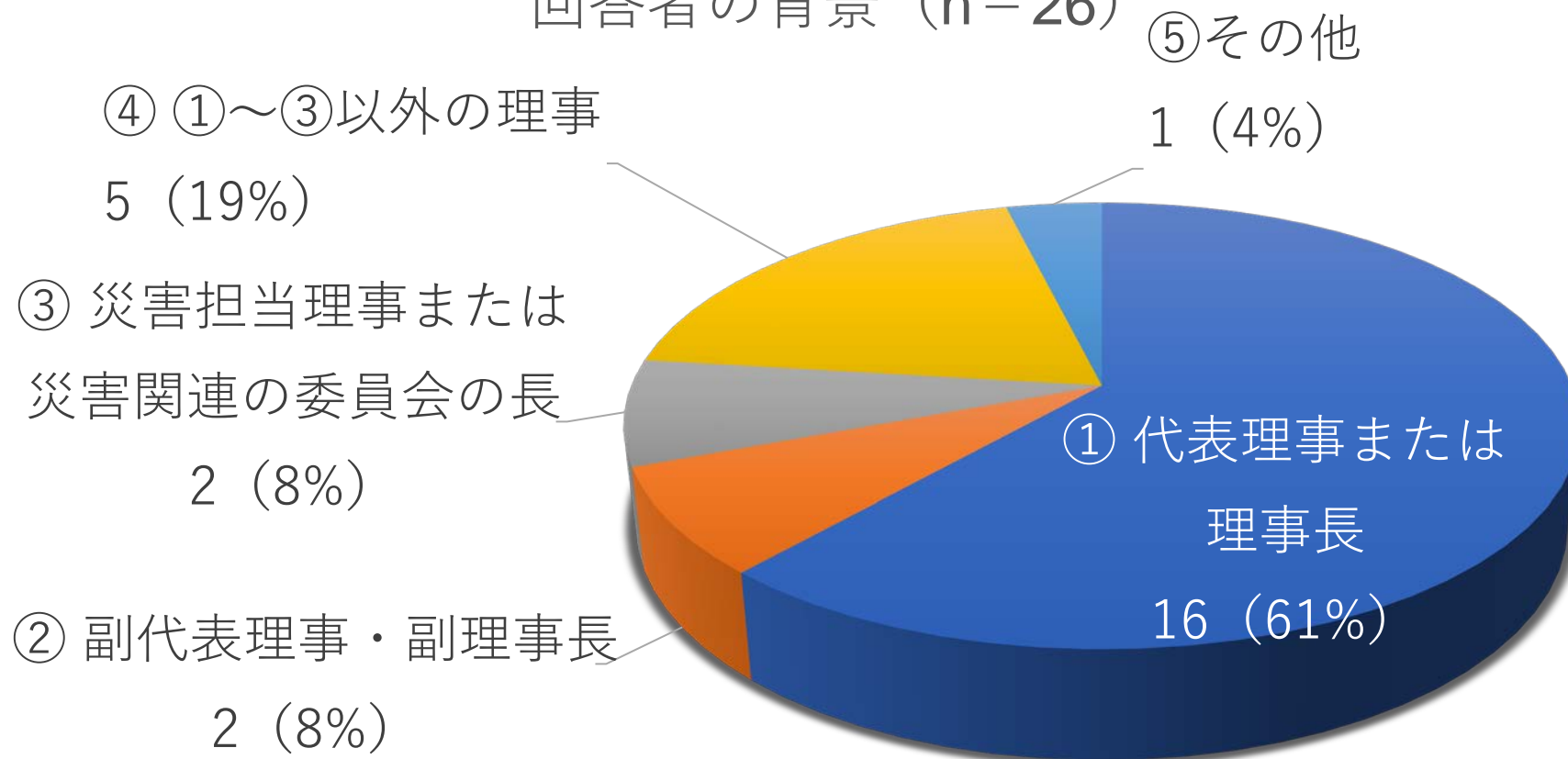
災害における看護の学会連携担当  
佐々木吉子

# 回答者の概要

調査期間：2020年 5月6日～5月15日

回答：26学会

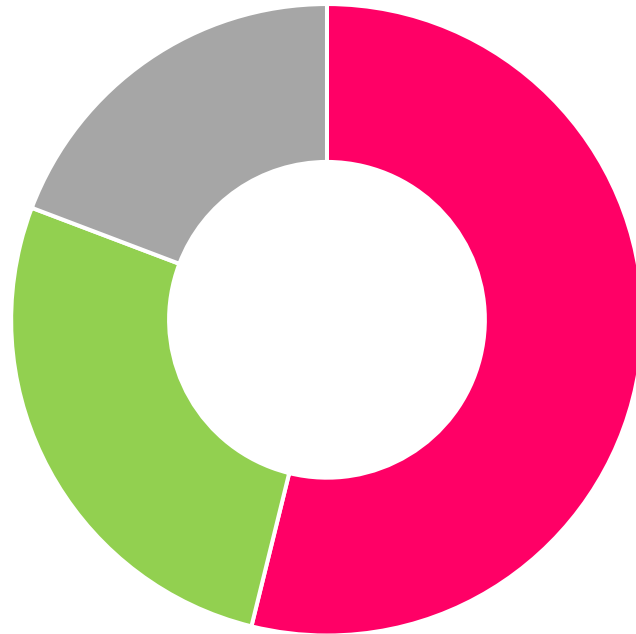
回答者の背景 (n = 26)



# 新型コロナウイルス感染症対応についての 学会としての意向・活動方針 (n=26)

学会として対応する意  
向はない 5 (19%)

学会としての意向・方針  
を検討予定である  
7 (27%)

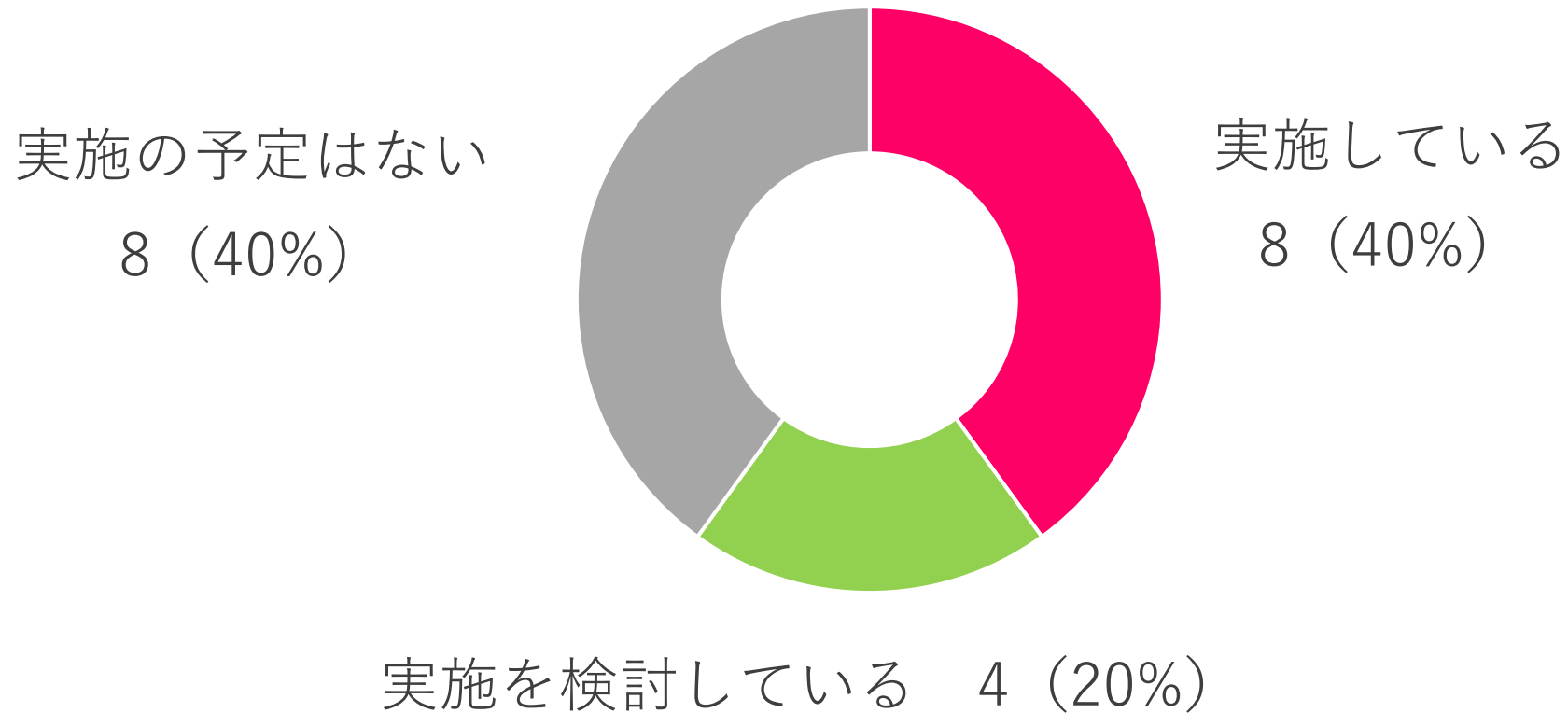


学会としての意向・  
活動方針を検討した  
14(54%)

## 対応しない理由 (n=5)

学会の活動趣旨に該当しない	0
財源やマンパワー的に厳しい	1
他に活動上の優先事項がある	1
その他	3
無回答	1

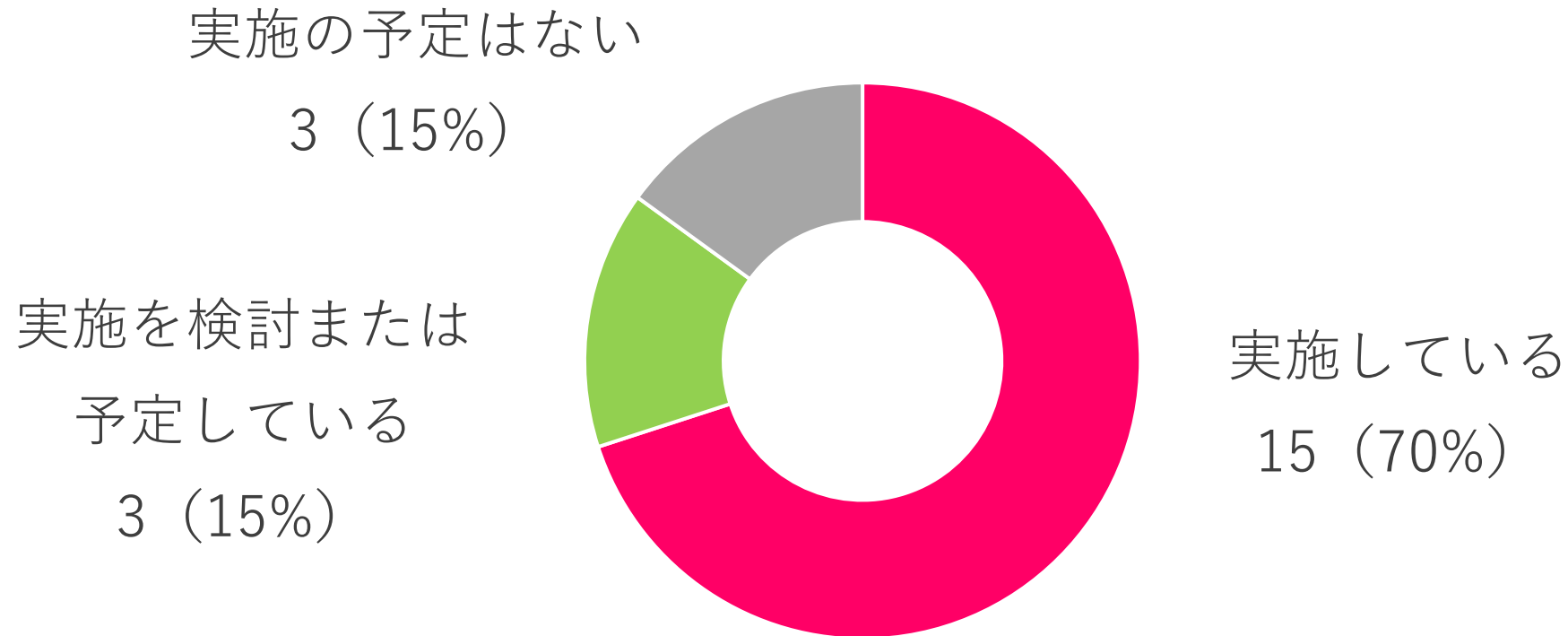
# 新型コロナウイルス感染症対応についての 特別プロジェクトの立ち上げ



# 会員学会における取り組みの内容

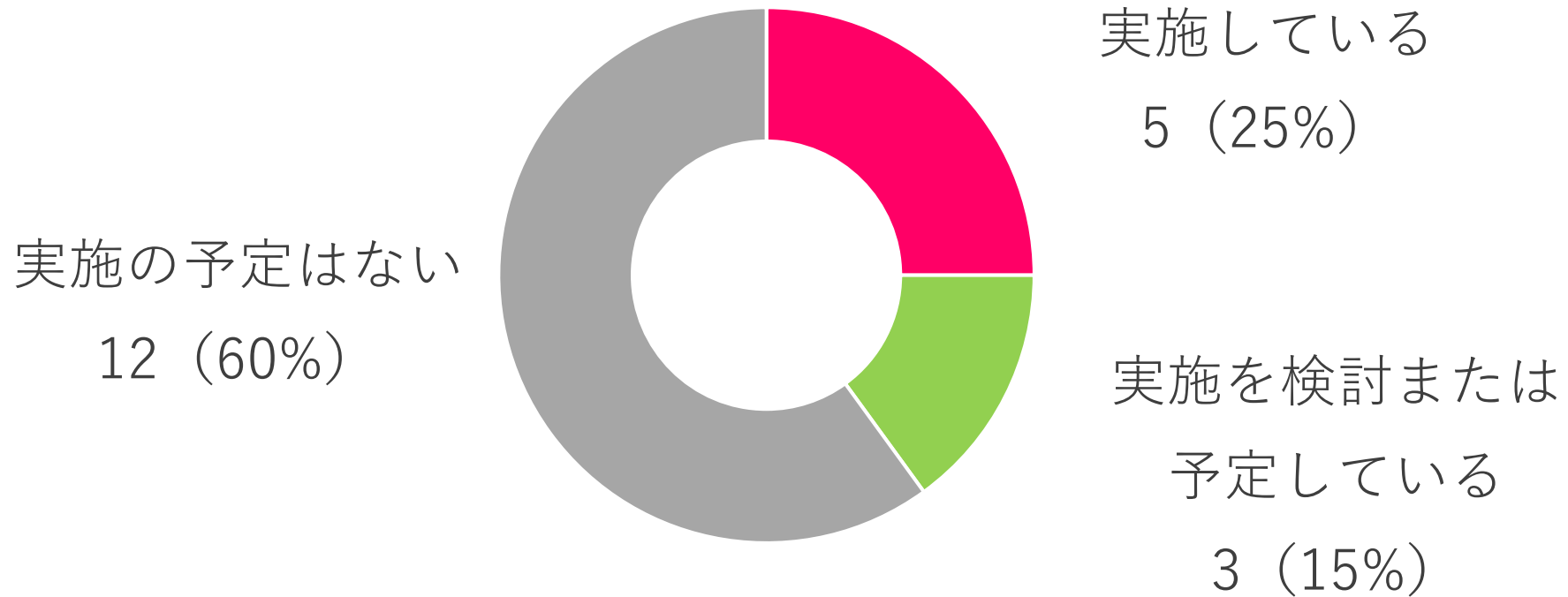
- 現場で実践している会員を対象とした緊急調査(複数学会)
- 将来の研究再開や推進に向けた、WEB方式による学術集会やセミナーの開催準備
- エビデンスに基づく情報を厳選・収集し、学会員に配信
- 関連するガイドラインの情報収集とHPでの公開
- 精神的な困難を体験している支援者支援（メール相談）ガイドラインの開発
- 調査に基づいた、手術室におけるCOVID-19対応ガイドの作成・更新
- 在宅ケアの現場における不足物品の調査と提供
- 厚生労働省からの協力要請を受けた保健活動の専門的・技術的支援
- プロジェクトにより、風評被害対策、国際ネットワークなどへの取り組み
- 会員・保健医療従事者へ謝意の提示
- 連携する他組織との共同による、「在宅ケアに従事する専門職の行動指針」、および「在宅療養者のご家族へのお願い」を策定し公開

# 新型コロナウイルス感染症に関する 情報の収集とHP等での公開 (n=20)

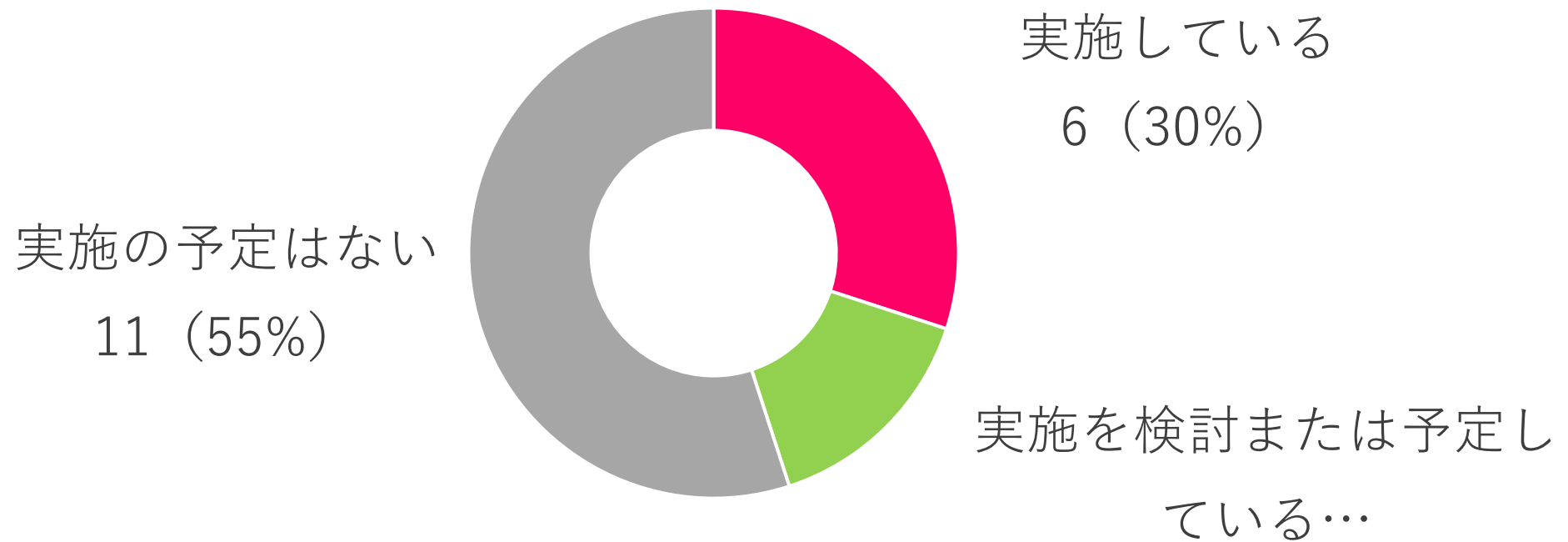




# 新型コロナウイルス感染症対応に関する 看護ガイドライン等の作成(n=20)



# 新型コロナウイルス感染症対応に関する 会員等への調査



# 取り組みを実施する中で感じている困難

- 調査結果について、あくまでも看護倫理の観点からどのように取りまとめていくかについて、今後早急な検討が必要である。
- 学会の役員をはじめ、メンバーそれぞれが自職場での対応に追われ、プロジェクト活動などの組織的な活動ができない(複数学会)
- 担当者に負担をかけずに調査を実施する配慮が必要である
- 地域や施設間の格差、地域によって関心が高い施設とそうでない施設の格差が生じていることにより、適切な情報提供が行えていない可能性がある。
- 災害ネットワークシステムを活用し施設の情報提供を行う中では、施設長との連携が取れていない施設もあり、細部の情報収集には困難を感じる。また、得られた情報は物資関連が多いため、関連業者との連携も必要である。

## その他のご意見

- 病棟や外来等の慣れない環境で勤務するうえにCOVID-19感染予防策を講じているため、精神的疲弊が高いと思われる。こうした看護師に対してどのようなサポートを学会が行えるのか、可能性を探っているメンタルヘルスの支援は、感染症の危機と少し時間差を置いて必要性が高まる。特に支援者のメンタルヘルス支援は、看護系学会共通の大きなテーマと考える。開発中のガイドラインは、JANAで共有の機会をいただけたらと思う。
- 他学会が行っている対応やガイドラインの内容を共有し、自学会の活動に取り入れていきたい。医療従事者への精神的ケアの方法なども情報共有できれば有り難い。
- 各学会が各々でCOVID-19特設サイトを作成したり、市民向け発信や専門職向けHPなどを作成しているが、JANAで英知を集めて1つ作って、各学会がリンクを貼るような合理的な協働ができないか。
- 他分野との連携を更に深めていきたい。
- 看護力の強さと基礎基本の重要性が証明されたと思うので、その基盤となる研究支援を一層充実させていきます。